

### 3.5 使用上の情報の作成（残留リスクの処置）

#### （1）残留リスク情報の記録

残留リスク情報はリスクアセスメント実施記録「リッパ・ギヤングリッパの残存リスク」に記載している。

資料6 参照

#### （2）使用上の情報の提供方法等

取扱説明書への記載および警告マークの添付

#### （3）その他、使用上の情報に関する問題点等

添付資料7「リッパ・ギヤングリッパの残存リスク」からわかるように、安全方策を実施したにもかかわらず多くの残留リスクがある。これら残留リスクに対しては取扱説明書による十分な補足説明と警告マークの貼付によるユーザーの注意喚起に頼らざるを得ないのが現状であるが、ユーザーがそれに従ってくれるかどうか不明であること。

## 4 リスクアセスメントの取り組みで顕在化した問題点とその解決策及び課題等

### 4.1 問題点の内容：

- （1）取り組みを始めたばかりで体制が整っておらず、自社に合った手法も確立されていないため、リスク確認や規模の判定に基準が無く、実施時に遭遇する各種の判断は担当者にとってかなりの負担になる。
- （2）予見される誤使用や予想外の危険源の確認作業の充実
- （3）参考事例の不足

### 4.2 その解決策：

- （1）使用者の立場から使用状況を予測することにより、誤使用対策を設計段階で機械に組み込むことが出来る。
- （2）危険源リストの完全適用とそれに基づく機械の安全化を行う。
- （3）頻度や程度などの判断の社内基準作りを行う。
- （4）社内設計基準の確立、統一を図る。
- （5）機種別リスクアセスメント実施のひな形を作成する。
- （6）けがの程度に応じた安全対策の必須事項の明確化とその強制適用を図る。

なお、苦労はあったが標準形が出来上がると、その後は標準形の応用で進めることができた。

### 4.3 今後の課題：

- （1）危険項目を踏まえた設計ルール確立
- （2）リスクアセスメント実施の際の判断基準の標準化

## 5 これまでにユーザーから受けたフィードバック事項：

### 5.1 その具体的な内容（と対応）の一例